

新型コロナウイルス流行と留学事業に関する 緊急アンケート調査報告 -ドイツの回答結果-

第26回留学生教育学会研究大会シンポジウム
オンライン開催

2021年8月20日

大阪大学国際教育交流センター

中野 遼子

アウトライン

1. 本発表の目的
2. ドイツの概要
3. ドイツの大学におけるCOVID-19の影響
4. ドイツ調査結果
5. まとめ
6. この調査結果からの提言

1. 本発表の目的

- ① ドイツの大学間学生交流およびCOVID-19による影響を概観する。
- ② ニューノーマル科研チームのアンケート調査について、ドイツの回答結果を提示する。
- ③ 感染症制御後の日本の大学間学生交流への示唆

1. 本発表の目的

ドイツを調査対象とする理由

- 英語圏でない点と、旧植民地に頼らず留学生を獲得している点で、日本と共通しており参考になると思われるため。

2018年 世界の国別受入留学生数

受入国	受入学生数	割合
1 アメリカ合衆国	987,314	17.7%
2 英国	452,079	8.1%
3 オーストラリア	444,514	8.0%
4 ドイツ	311,738	5.6%
5 ロシア	262,416	4.7%
6 中国	231,128	4.1%
7 フランス	299,623	4.1%
8 カナダ	224,548	4.0%
9 日本	182,748	3.3%
10 トルコ	125,138	2.2%
その他	2,120,156	38.1% ₄

DAAD (2021a) 「2020年度版Wissenschaft weltoffen」より発表者作成
(UNESCOの学生統計をもとにDAADが作成)

DAAD (2021a) 「2020年度版Wissenschaft weltoffen」：
[http://www.wissenschaftweltoffen.de/publikation/wiwe_2020_verlinkt.pdf\(2021/08/06閲覧\)](http://www.wissenschaftweltoffen.de/publikation/wiwe_2020_verlinkt.pdf(2021/08/06閲覧))



2. ドイツの概要

2. ドイツの概要

【大学数】 (2020年現在)	390 (HRK,2021)	<ul style="list-style-type: none">・ 総合大学 120・ 専門大学 213・ 美術・音楽大学 57
【調査期間】	2021年3月1日～5月31日	
【回答数】	22校	

回答校の内訳

大学種別	回答数
総合大学	11
専門大学	10
美術・音楽大学	1
計	22

- ・ HRK:ドイツ大学学長会議
- ・ DAAD:ドイツ学術交流会

回答校は全て国立・州立大学

2. ドイツの概要

学生数の概要

学生数 (2020年現在)	290万人	<ul style="list-style-type: none">・総合大学 178万人・専門大学 108万人・美術・音楽大学 36,633人
受入留学生数 (2018/2019冬学期)	302,157人 (全学生数の14.2%) (うちエラスムス学生約3万人)	<ul style="list-style-type: none">・中国 39,871人・インド 20,562人・オーストリア 11,495人・ロシア 10,439人 (日本 2,299人 DAADより)
派遣留学生数 (2017年度)	139,205人 (うちエラスムス学生約4万人)	<ul style="list-style-type: none">・オーストリア 28,670人・オランダ 21,858人・英国 15,745人・スイス 14,558人・アメリカ 10,042人・中国 7,814人

HRK (2021) 「Higher Education Institutions in Figures 2020」 (同上) より発表者作成

HRK (2021) "Higher Education Institutions in Figures 2020":
<https://www.hrk.de/themen/hochschulsystem/statistik/> (2021/08/06閲覧)

DAAD "Ausländische Studierende in Deutschland: Anzahl & Entwicklung":
<https://www.daad.de/de/der-daad/was-wir-tun/zahlen-und-fakten/mobilitaet-auslaendischer-studierender/>
(2021/08/17閲覧)

2. ドイツの概要

(参考) 在日ドイツ人留学生数の推移

* パンデミック前は増加傾向



JASSO「平成20年度外国人留学生在籍状況調査結果」～「2020（令和2）年度外国人留学生在籍状況調査結果」より発表者作成）

2. ドイツの概要

エラスムス・プログラムについて

正式名称	エラスムス (ERASMUS, European Community Action Scheme for the Mobility of University Students) 現在は、Erasmus+ (2014年～)
目的	EU加盟国における大学間の協力と流動化を目的として開始された留学交流プログラム。現在のErasmus+は、欧州の高等教育、職業教育・訓練、学校教育（幼児教育を含む）、成人教育、青少年、スポーツの相互交流促進を目的とする統合的な資金助成プログラム。
歴史	<ul style="list-style-type: none">第1期 Erasmusが1987年に開始 (吉川, 2004)現在は第6期 (2021～2027年) 第6期では、1) ソーシャル・インクルージョン、2) グリーン・トランジション、3) デジタル・トランジション、4) 若者の民主的生活への参加促進、の4点に重点が置かれている
予算	予算は262億ユーロ ※前身のプログラム (2014年～2020年) と比較して約2倍の資金
特徴	<ul style="list-style-type: none">エラスムス・プラスの一部は日本を含む特定のEU域外国の人々も利用可能。一度の留学で1カ国だけではなく、EU域内の複数の国で学ぶことができ、一度に複数の大学での学位取得が可能なプログラムも提供 (駐日欧州連合代表部, 2014)

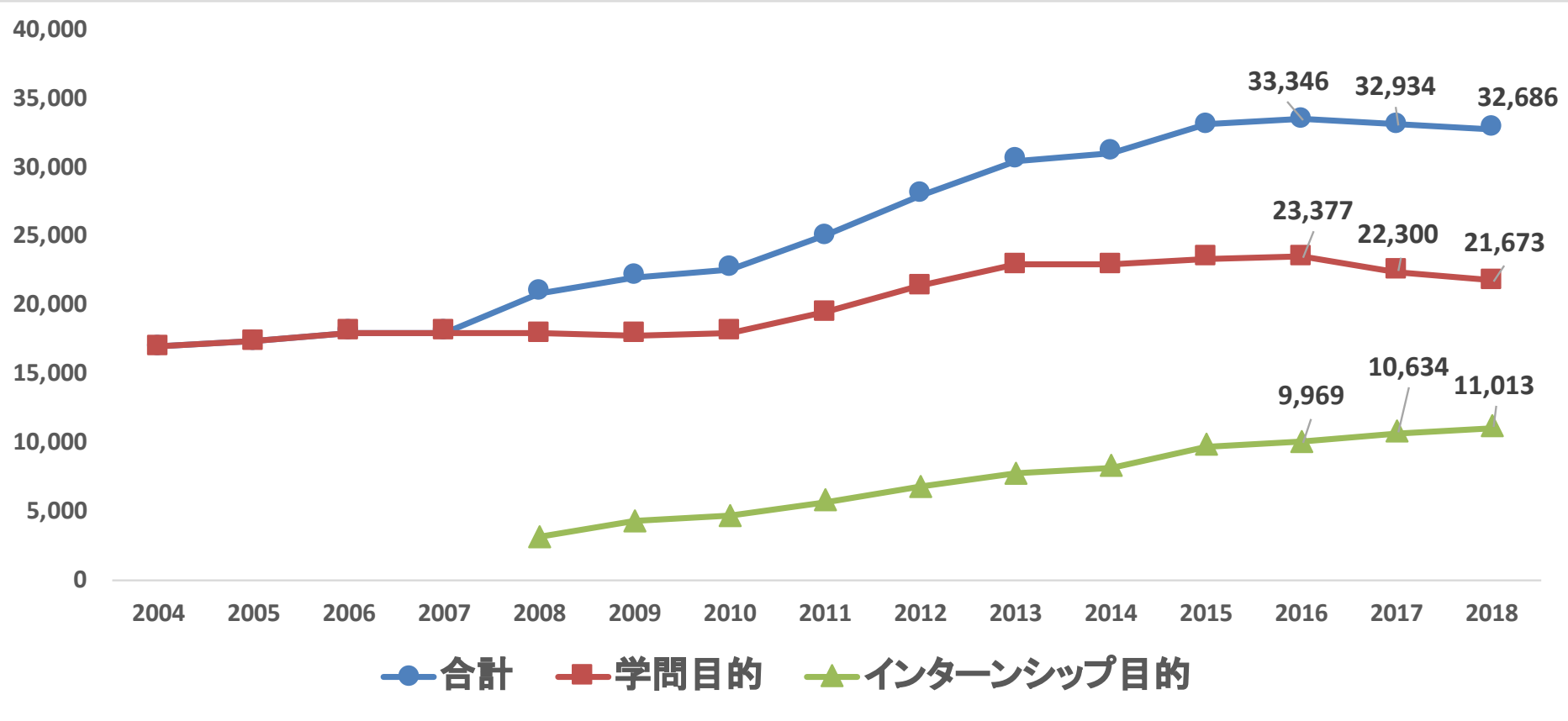
欧州委員会「エラスムス・プラス・プログラム」と参考文献より発表者作成

欧州委員会「エラスムス・プラス・プログラム」:

https://ec.europa.eu/programmes/erasmus-plus/about_en (2021/08/06閲覧)

2. ドイツの概要

ドイツの受入エラasmus参加学生数



DAAD (2021a) 「2020年度版Wissenschaft weltoffen」より発表者作成

DAAD (2021a) 「2020年度版Wissenschaft weltoffen」 : http://www.wissenschaftweltoffen.de/publikation/wiwe_2020_verlinkt.pdf(2021/08/06閲覧)

2. ドイツの概要

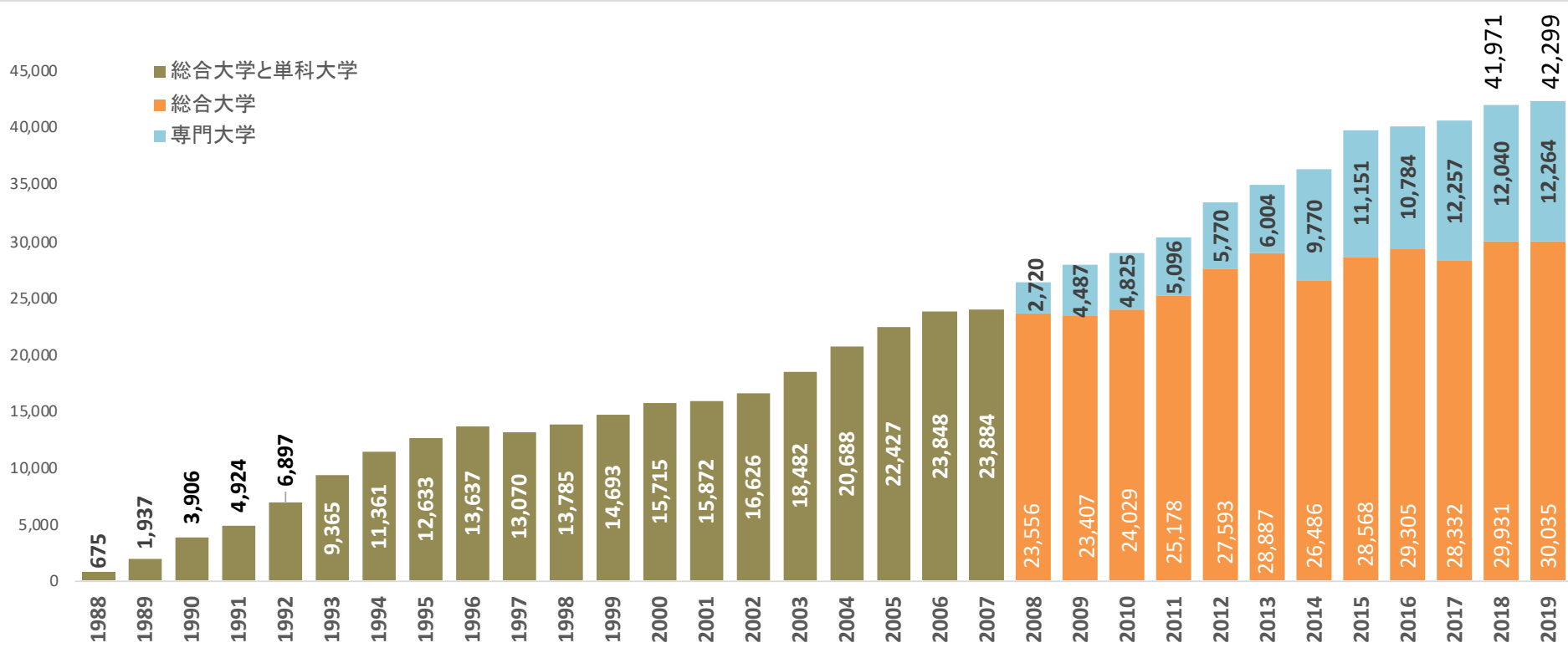
ドイツへの受入エラスムス参加学生の出身国

出身国	受入学生数	割合
フランス	4,922	15.1%
イタリア	4,307	13.2%
スペイン	3,748	11.5%
トルコ	2,913	8.9%
英国	2,352	7.2%
ポーランド	1,916	5.9%
オランダ	1,531	4.7%
オーストリア	1,498	4.6%
フィンランド	987	3.0%
チェコ	950	2.9%

DAAD (2021a) 「2020年度版Wissenschaft weltoffen」より発表者作成

2. ドイツの概要

大学種類別によるドイツからの派遣エラasmus参加学生数



(DAAD (2021a) 「2020年度版Wissenschaft weltweit」より発表者作成)


2. ドイツの概要

ドイツからのエラスムス参加学生の派遣先

派遣先	派遣学生数	割合
スペイン	6,859	16.2%
フランス	5,490	13.0%
英国	4,866	11.5%
イタリア	2,942	7.0%
スウェーデン	2,505	5.9%
フィンランド	2,060	4.9%
オランダ	2,015	4.8%
ノルウェー	1,869	4.4%
オーストリア	1,762	4.2%
アイルランド	1,494	3.5%
ポルトガル	1,307	3.1%
トルコ	1,201	2.8%
ポーランド	1,123	2.7%
ベルギー	1,000	2.4%
デンマーク	993	2.3%
合計	42,299	100.0%

(参考)
学位目的の留学先

派遣先	派遣学生数	割合
オーストリア	29,053	21.5%
オランダ	21,314	15.8%
英国	15,300	11.3%
スイス	11,459	8.5%
アメリカ合衆国	9,191	6.8%
中国	8,079	6.0%
フランス	4,231	3.1%
トルコ	3,850	2.8%
ハンガリー	3,428	2.5%
デンマーク	2,018	2.2%



3. ドイツの大学におけるCOVID-19の影響

3. ドイツの大学におけるCOVID-19の影響

(DAAD (2021b) 「Working Paper: COVID-19 and the impact on international student mobility in Germany」より)

171校からの回答 (総合大学、専門大学、芸術大学からの回答)

今後の大学の国際化について

- ドイツの半数以上 (51%) の大学が、パンデミック後もドイツにおける大学の国際化の重要性はほとんど変わらないと、楽観的な見方を示している。

2020/2021年冬学期について

- 63%の大学が、対面とオンラインのハイブリッド形式の授業を実施し、16%のみが完全オンライン授業を提供していた。
- しかし、40%の大学が、学期の途中で完全オンライン形式に切り替えた。

3. ドイツの大学におけるCOVID-19の影響

学生交流について

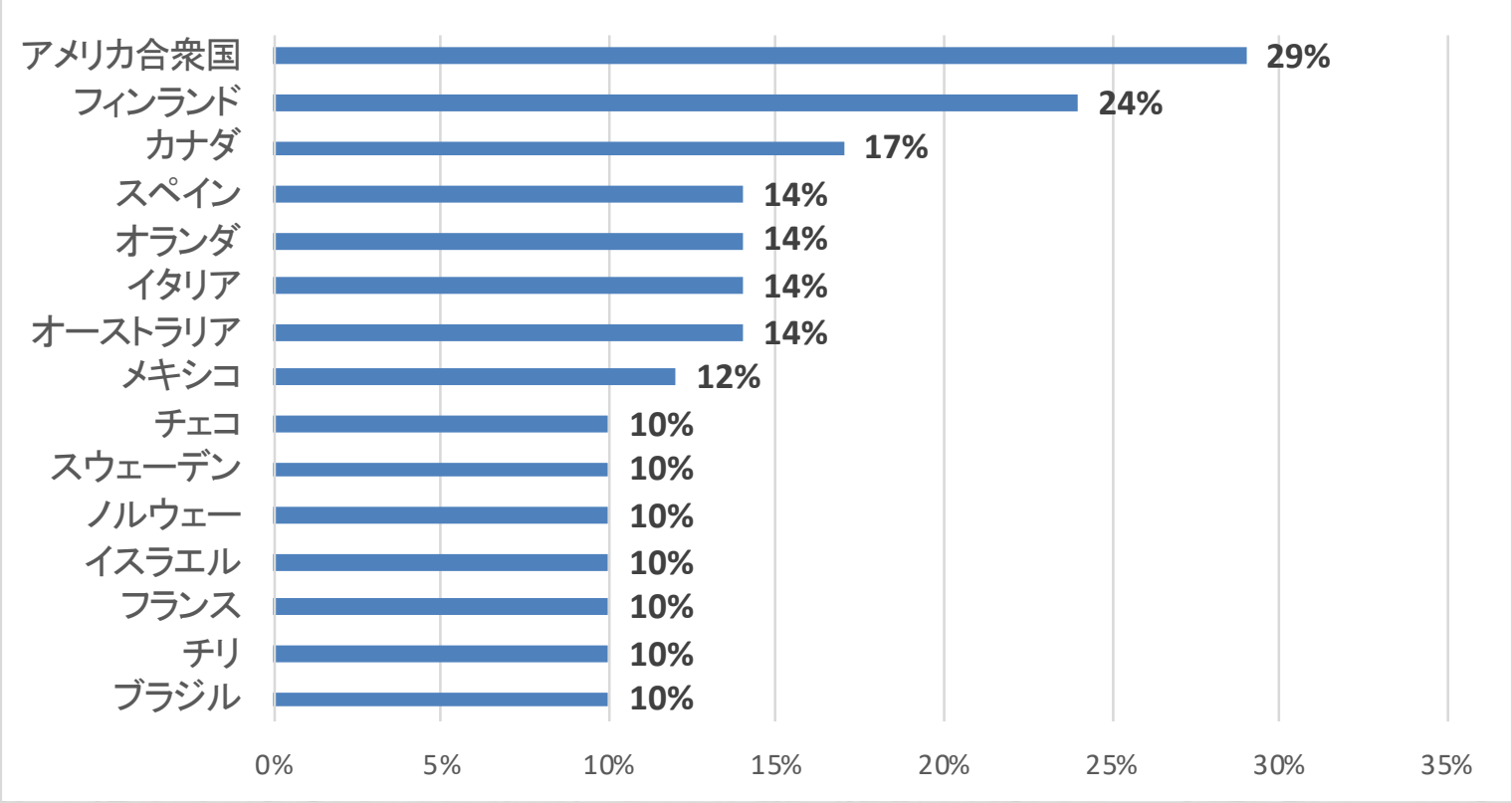
- 2020/2021年冬学期に、**63%**の大学では、留学生（14,700人の正規留学生、2,300人の非正規留学生）に入学許可が出たにも関わらず、ビザが発給されずドイツに入国できなかった。
- 2020/21年冬学期にすべての留学・交換プログラムを中止した大学はわずか**5%**であった。
- パンデミックの結果、約4分の1の大学（**26%**）が、海外の大学と新たにバーチャルコース等、**バーチャル教育関連の協定**を結んだ。パートナーとして最も多かったのは、**米国、フィンランド、カナダの大学**であった。
- 半数の大学（**50%**）は、高等教育の国際化におけるデジタル関連の活用・サービスの重要性は、パンデミック後も変わらないと考えており、**19%**の大学はその重要性がさらに高まるとさえ予想している。
- **71%**の大学が、高等教育の国際化におけるデジタル関連の活用・サービスの重要性が増すことで、国際センターの仕事量が全体的に増えると考えている。

3. ドイツの大学におけるCOVID-19の影響

学生交流について

- パンデミックの結果、約4分の1の大学（26%）が、海外の大学と新たにバーチャルコース等、**バーチャル教育関連の協定**を結んだ。パートナーとして最も多かったのは、米国、フィンランド、カナダの大学であった

COVID-19の流行により、海外の大学と新たにバーチャルな協力関係を結んだか？

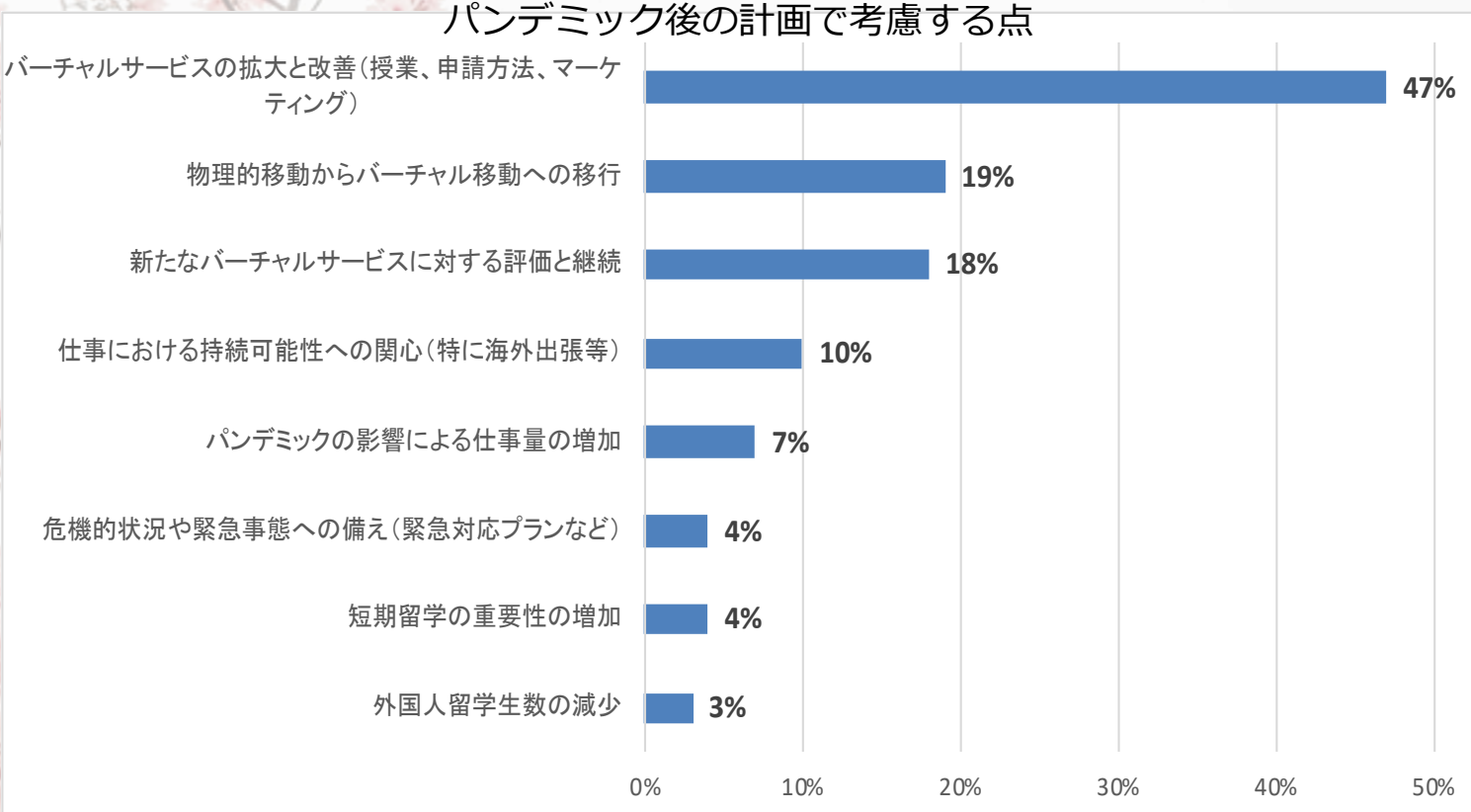



DAAD (2021b) 「Working Paper: COVID-19 and the impact on international student mobility in Germany」(同上) を基に発表者作成

3. ドイツの大学におけるCOVID-19の影響

学生交流について

- パンデミック後の計画にどのような点を考慮するかについては、①**バーチャル**なサービス（コース、申請手続き、マーケティングなど）の拡大と改善が圧倒的に多く挙げられた（約半数の**47%**が回答）。次に、②**物理的なモビリティからバーチャルなモビリティへの移行**（19%）や、③**新しく確立されたバーチャルなサービスの評価と継続**（18%）と続いている。
- それに比べて、危機的状況や緊急事態への備え（緊急時対策など）、短期的な移動の重要性の高まり（各4%）、留学生の減少（3%）などは、あまり言及されていない。



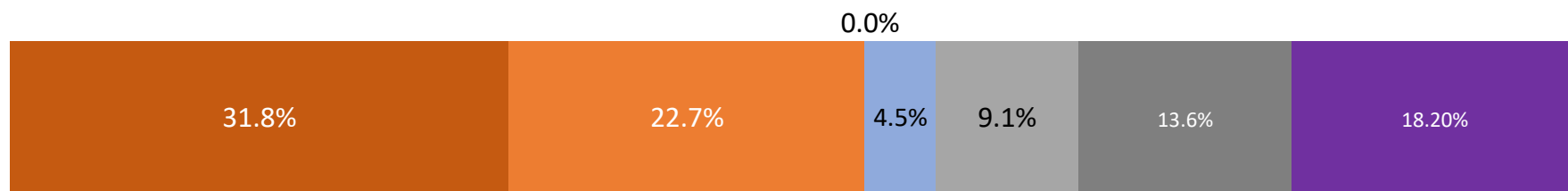
The background of the slide is a soft-focus image of pink cherry blossoms (sakura) in full bloom, with delicate petals and dark branches against a light, hazy sky. The text is centered over this image.

4. ドイツ調査の結果

4. ドイツ調査の結果

回答数22校

4.1 感染症制御後の学生交流に向けての準備 再開の方針

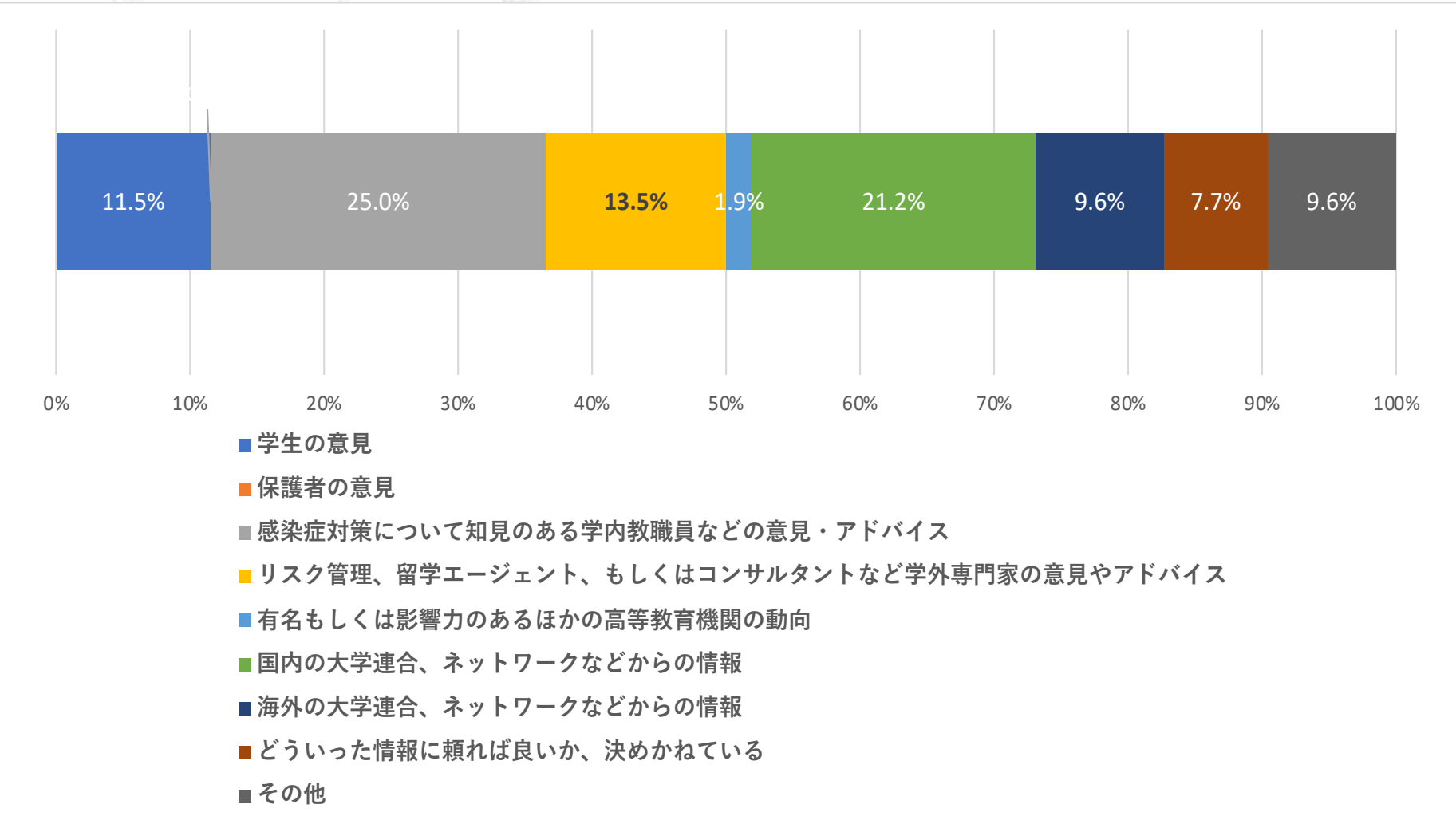


- 【はい】私たちはパンデミック後のガイドライン・方針を定めています。
- 【はい】私たちはパンデミック後に向けてのガイドライン・方針を定めつつある、もしくは検討中です。
- 【いいえ】しかし、私たちは現在そういった方針制定について検討をはじめようとしています。
- 【いいえ】しかし、私たちは方針を決めるための情報を収集中です。
- 【いいえ】しかし、感染症のガイドラインやその他の規定が許せば再開します。
- 【いいえ】どのような状況でも留学交流を再開しません、
- 【いいえ】以前通りに留学交流を再開するだけですから、新たな方針は不要です。
- その他

・ 半数以上の大学（54.5%）が方針を決定している／決定しつつある。 20

4. ドイツ調査の結果

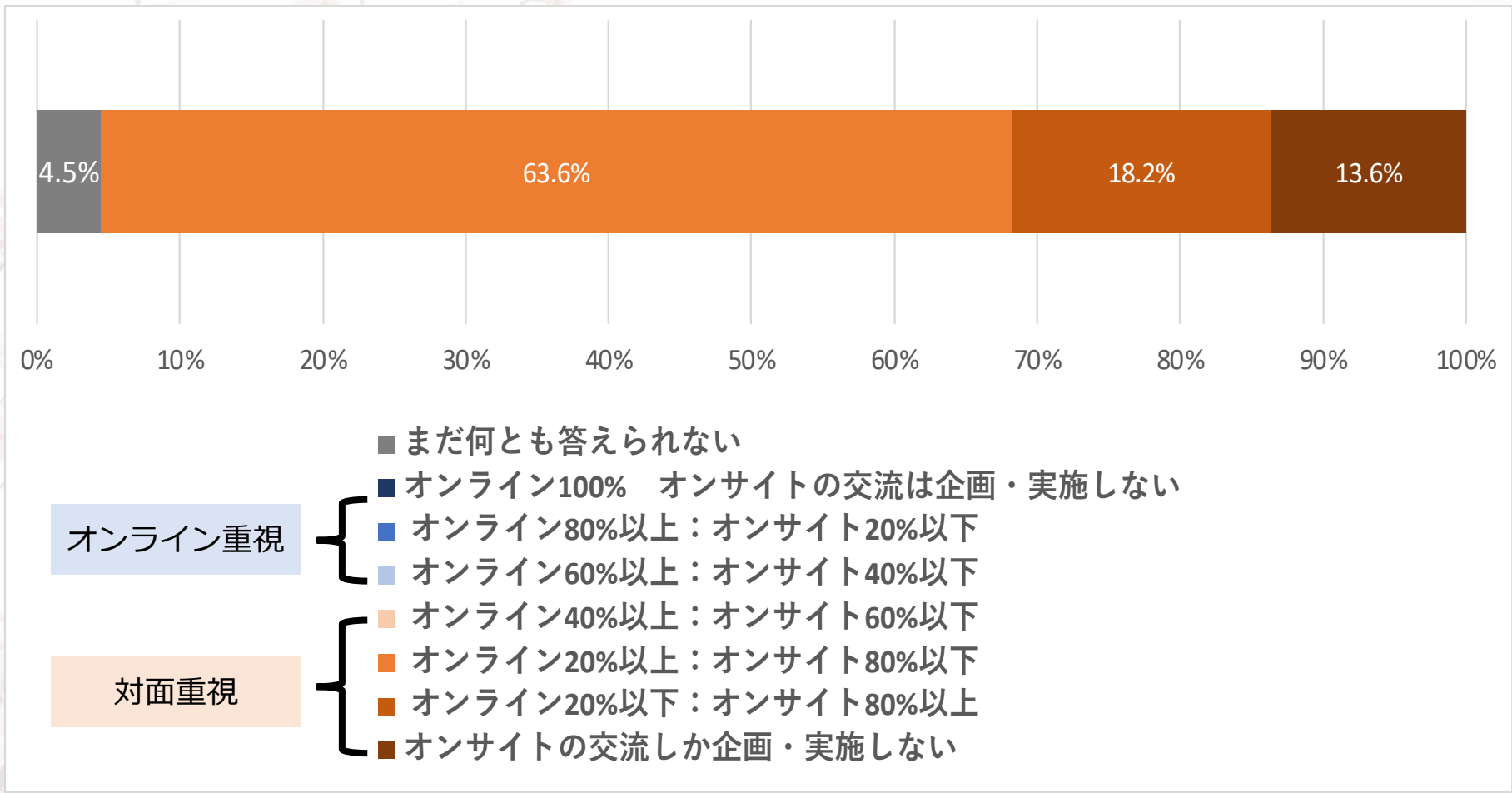
4.2 留学再開に際し参考にする意見（ドイツ）



・ 保護者の意見を参考にする回答した大学はなかった。

4. ドイツ調査の結果

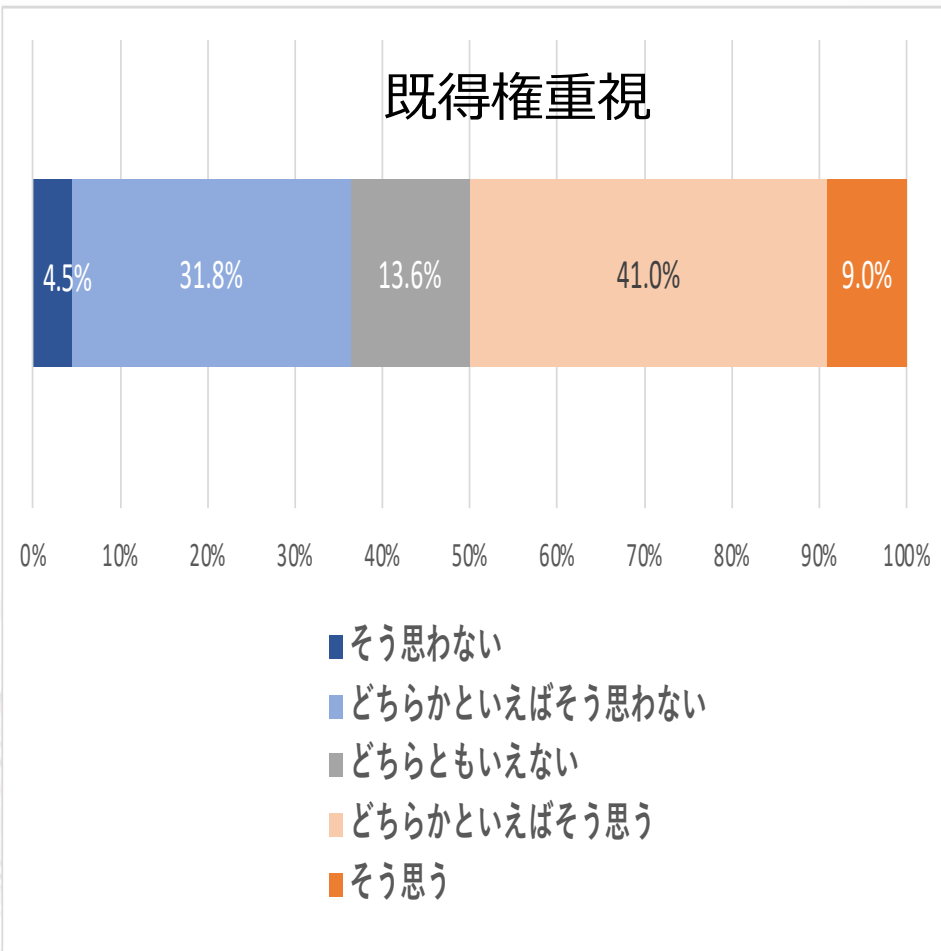
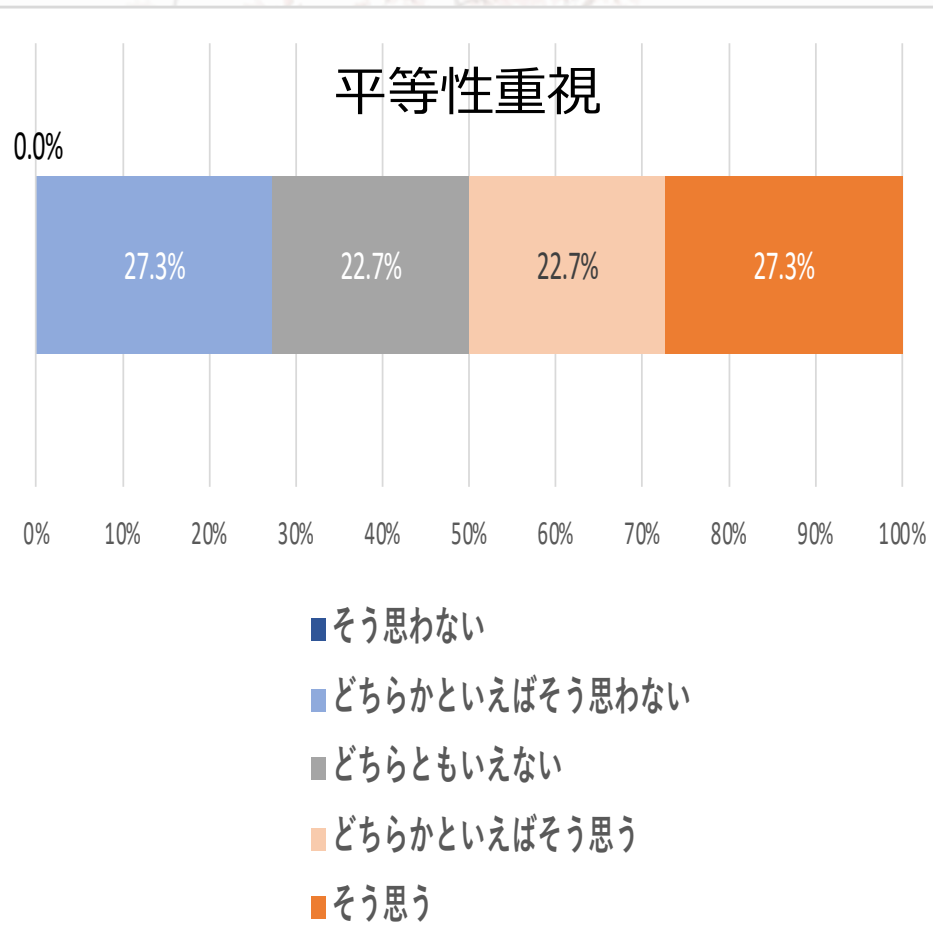
4.3 感染症制御後の留学形態（対面とオンラインの比率）



95.4%が対面重視の留学を進める、と回答している。

4. ドイツ調査の結果

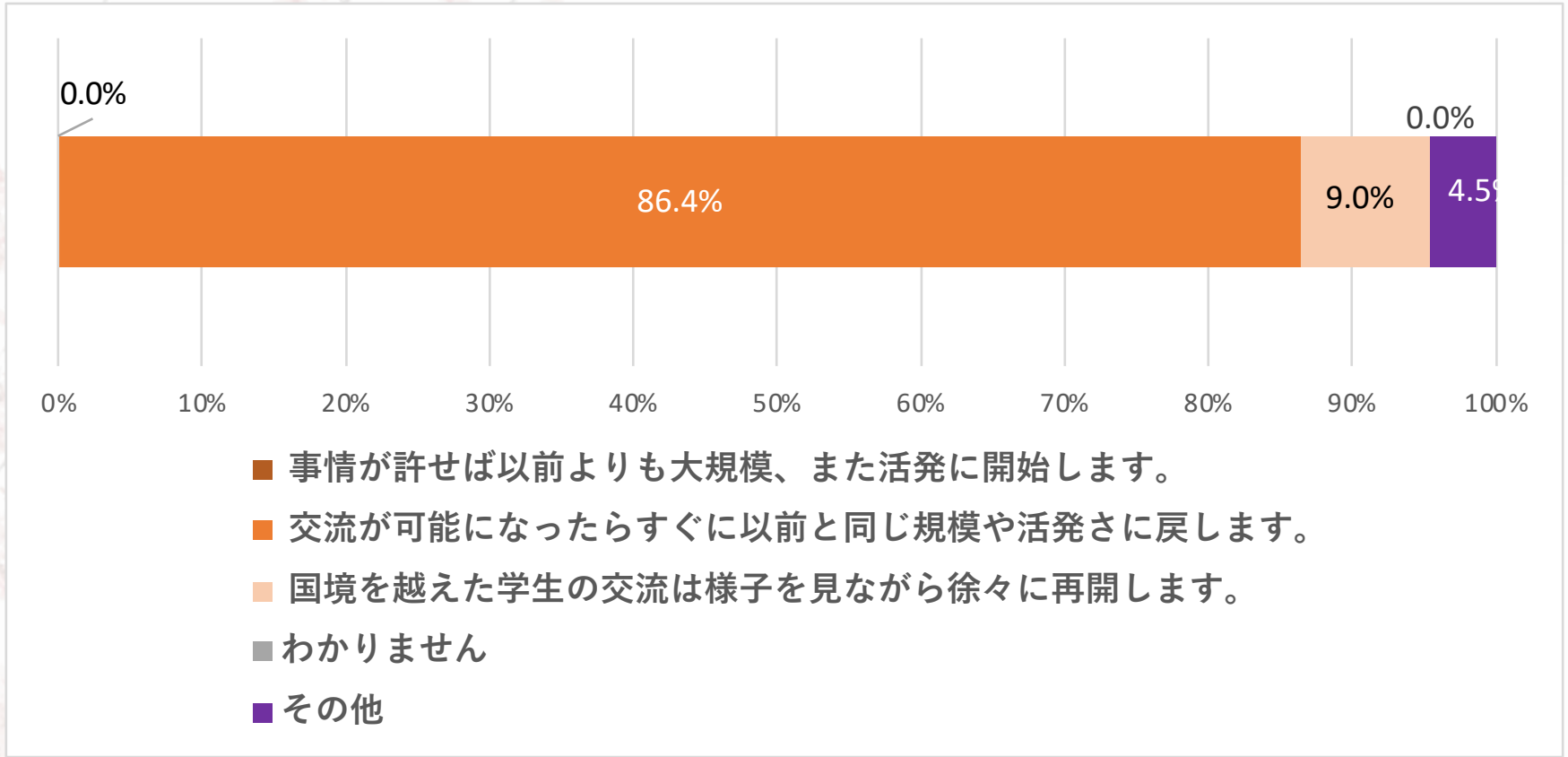
4.4 感染症制御後の大学間留学交流プログラム派遣候補者 選抜の際の「平等性」と「既得権」



どちらかといえば、「平等性重視」の傾向がある。

4. ドイツ調査の結果

4.5 感染症制御後の学生交流再開の方針

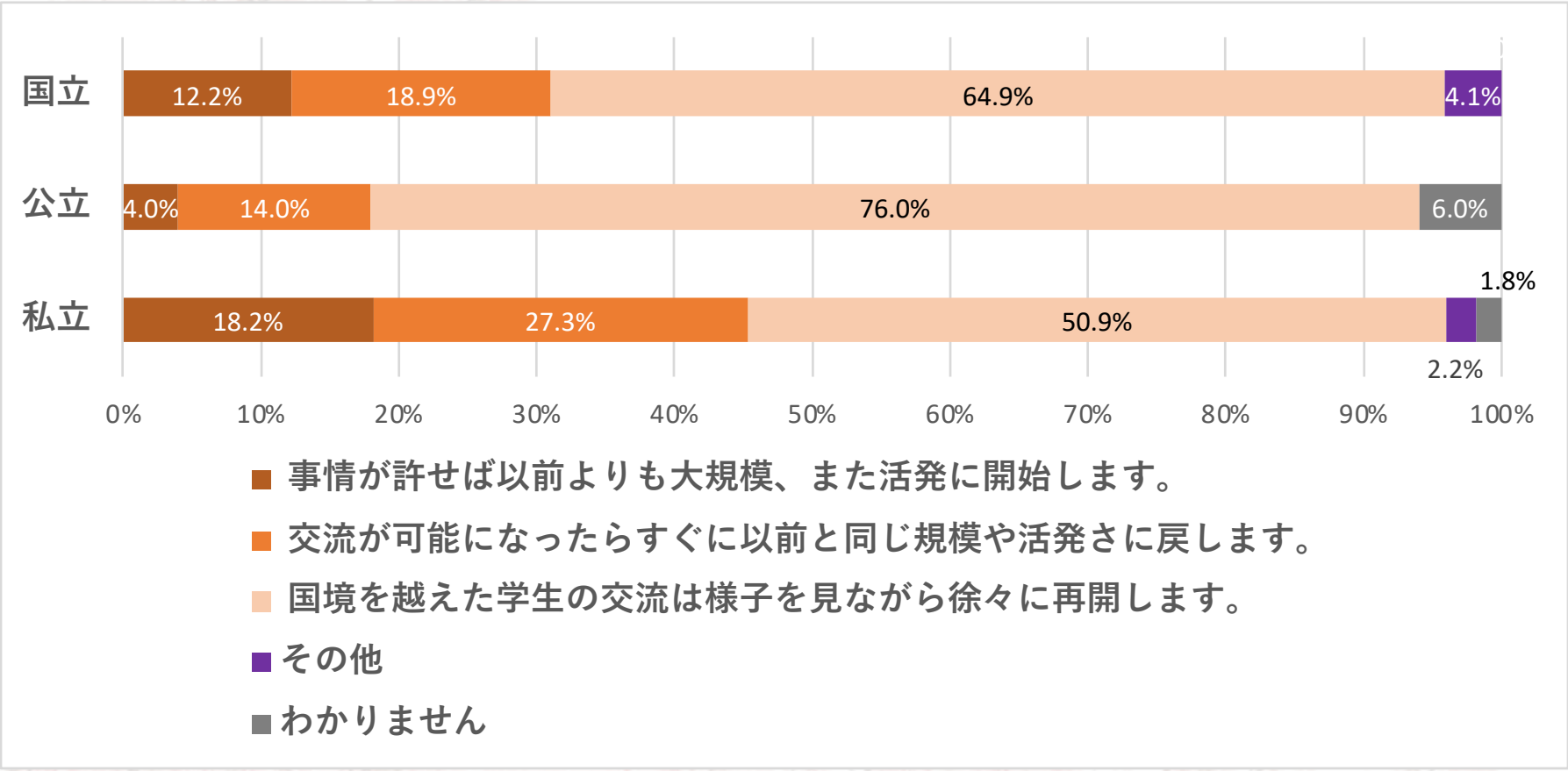


・ 以前と同じ規模の活発な学生交流を予定している。
→ DAADの調査結果と一致。

4. ドイツ調査の結果

4.5 感染症制御後の学生交流再開の方針

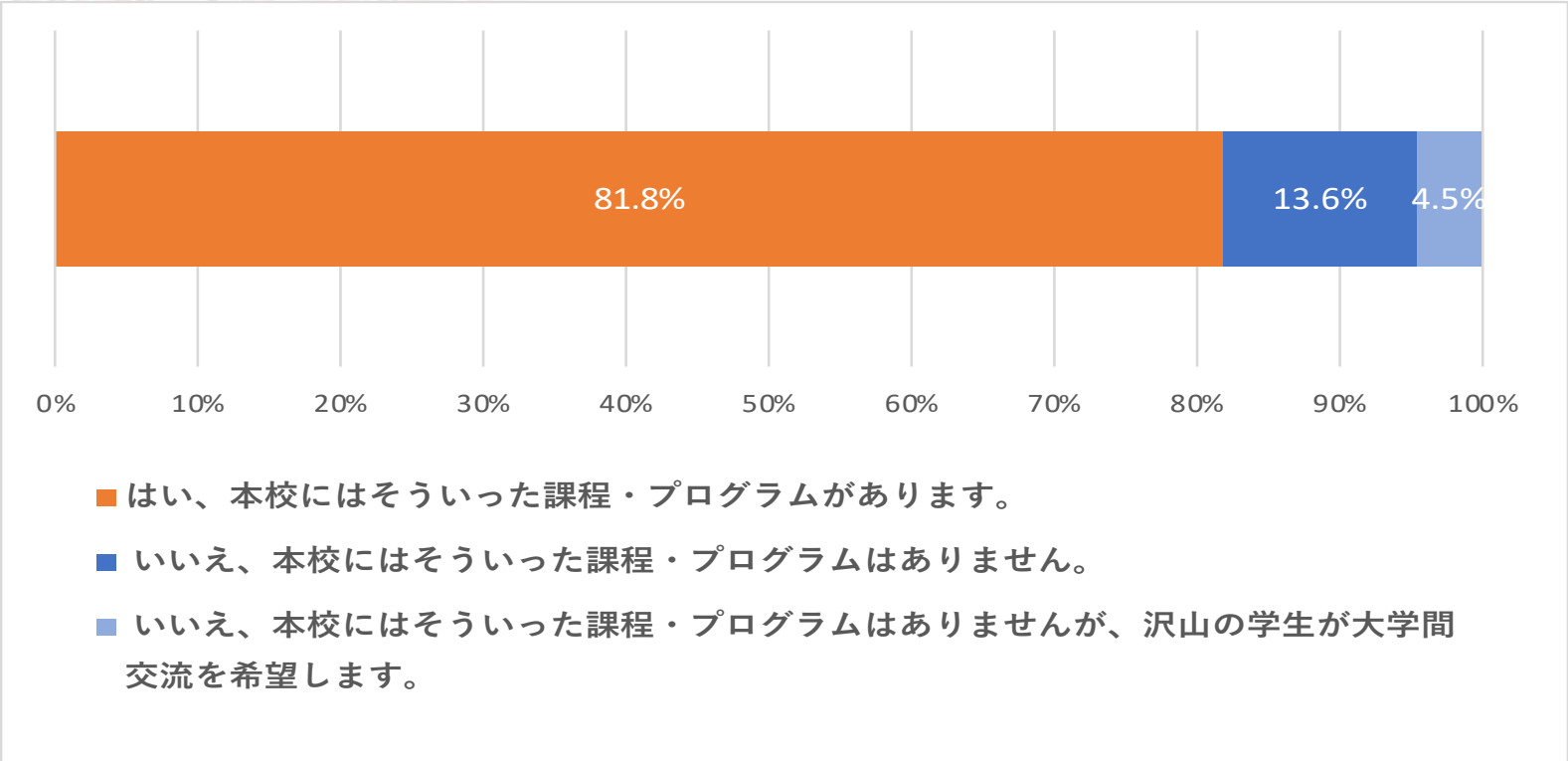
(参考) 日本の回答 (179校)



4. ドイツ調査の結果

4.6 留学と修了要件

御校には修了・卒業の要件として、留学など海外での経験を要するコースや教育課程（ダブルディグリーの課程などを含む）がありますか。



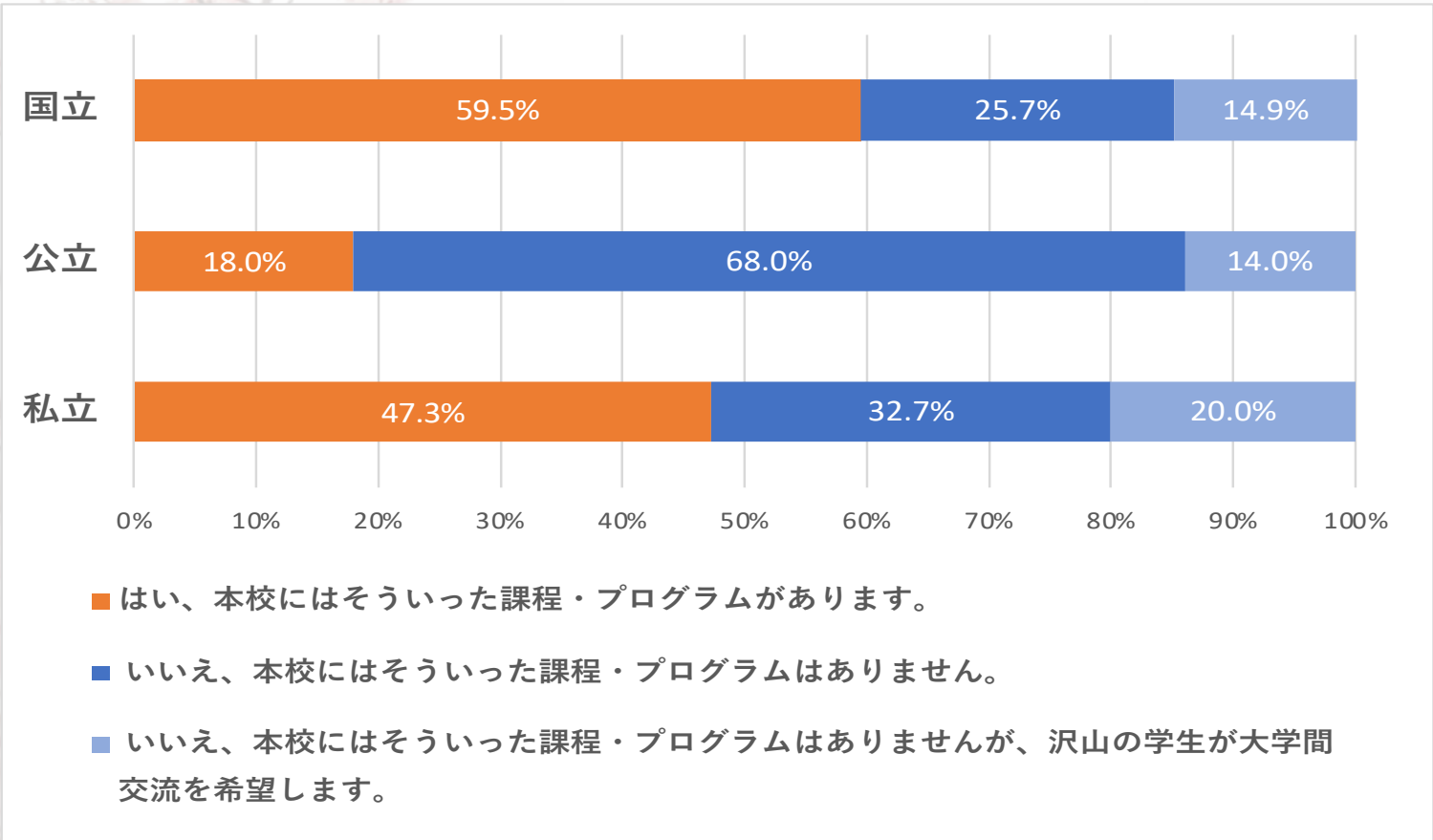
82%の大学で、留学が修了・卒業要件になっている。

4. ドイツ調査の結果

4.6 留学と修了要件

御校には修了・卒業の要件として、留学など海外での経験を要するコースや教育課程（ダブルディグリーの課程などを含む）がありますか。

(参考) 日本の回答 (179校)



4. ドイツ調査の結果

4.7 コロナ禍における留学必須の課程への対応

はいと回答した18校について

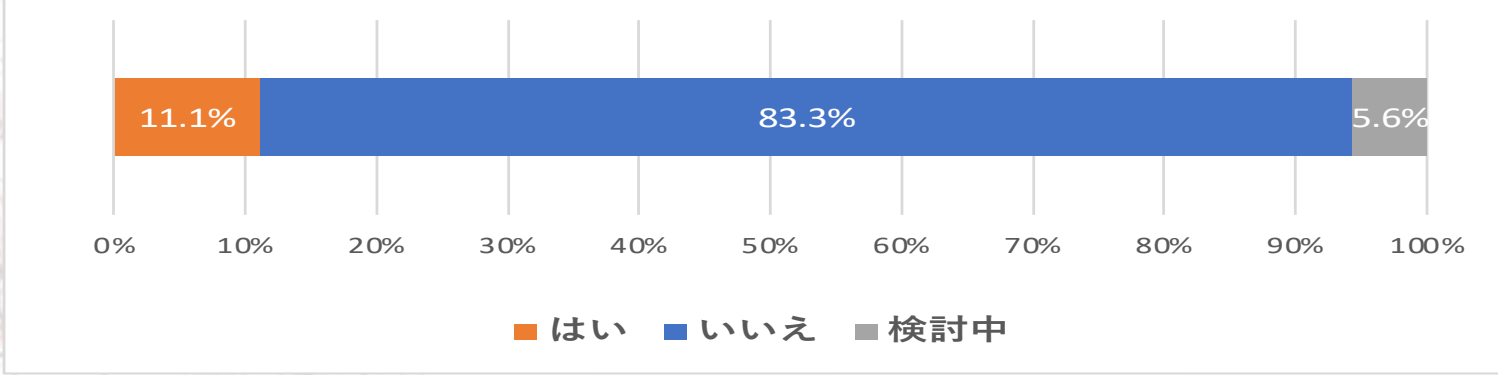
- (1) **卒業・修了を延期**させた（させている）。
- (2) **仮想的にグローバル教育代替プログラムを課し**、修了要件相当と見做した。（海外の授業にオンライン参加させるなど）
- (3) **国内で実地に行われる代替教育プログラムを課し**、修了要件相当と見做した。（学内で実施されている国際性の高い授業に参加させるなど）
- (4) **国内での多文化経験に基づく実践もしくは実習中心の代替プログラムを課し**、修了要件相当と見做した。
（留学生や外国人住民とのワークショップなど）

4. ドイツ調査の結果

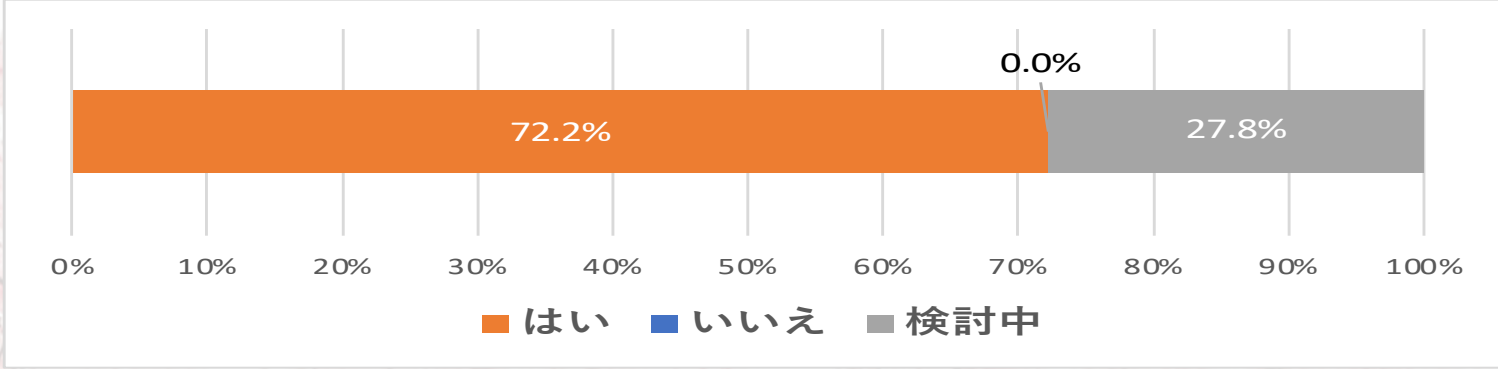
4.7 コロナ禍における留学必須の課程への対応

はいと回答した18校について

(1) **卒業・修了を延期**させた（させている）。



(2) 海外の授業にオンライン参加させるなど、**仮想的にグローバル教育代替プログラムを課し**、修了要件相当と見做した。



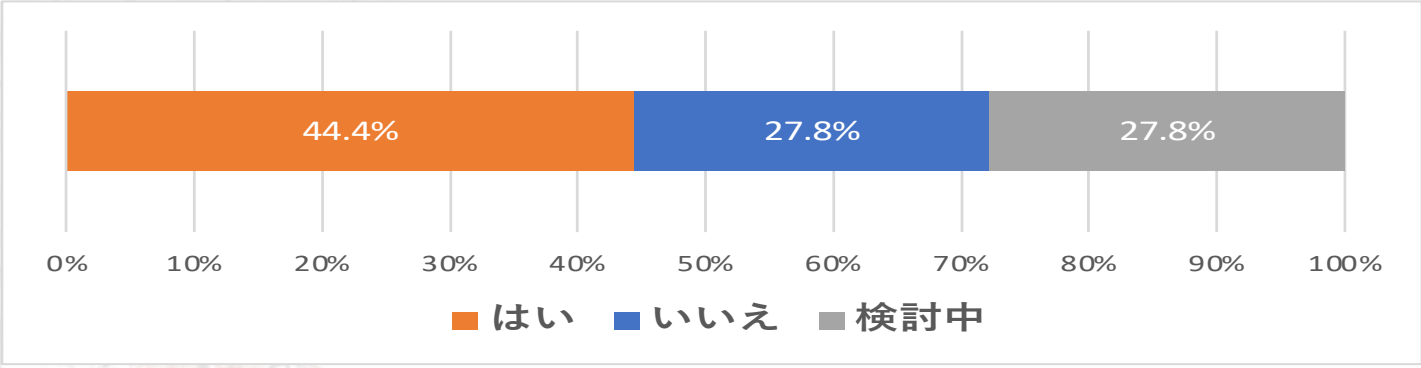
7割以上がオンラインプログラムを留学の代替プログラムとして、修了要件とした。
→ DAADの調査結果と一致。バーチャル関連を進める傾向。

4. ドイツ調査の結果

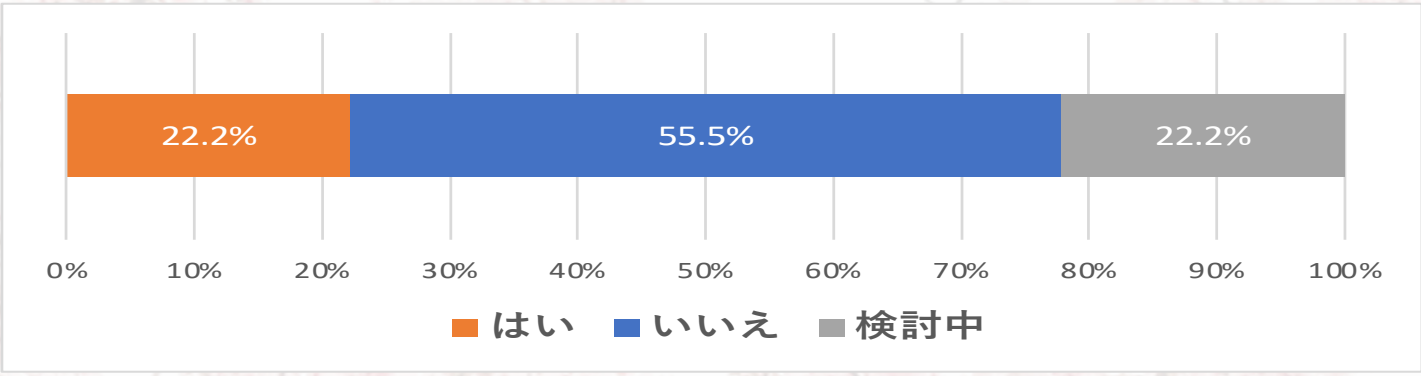
4.7 コロナ禍における留学必須の課程への対応

はいと回答した18校について

(3) 国内で実地におこなわれる代替教育プログラムを課し、修了要件相当と見做した。



(4) 国内での多文化経験に基づく実践もしくは実習中心の代替プログラムを課し、修了要件相当と見做した。



- 半数弱（44%）の回答校が学内での代替プログラムも活用していた。
- (2)と(3)の対応が多く、日本と同様の結果。

4. ドイツ調査の結果

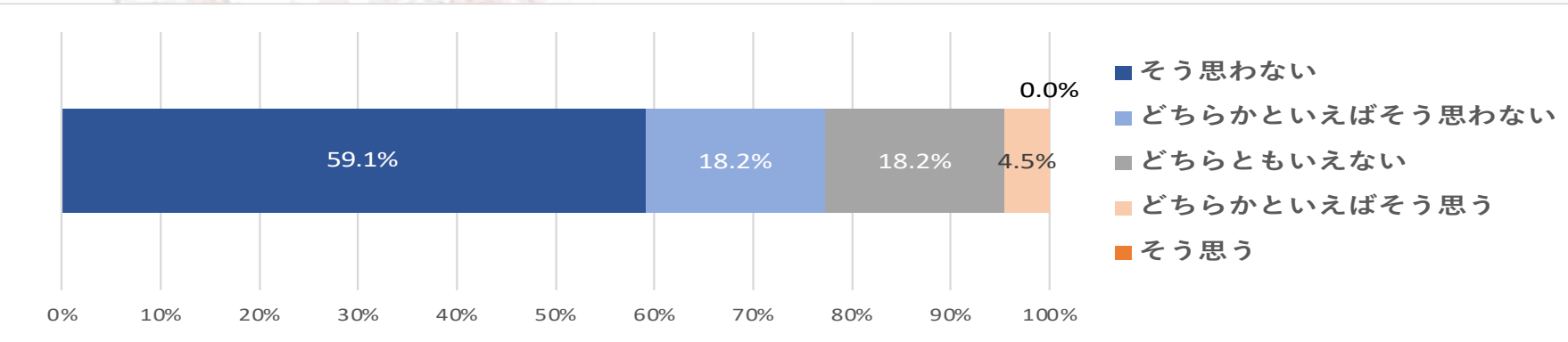
4.8 ニューノーマル期の合意形成

- (1) 【必要ない】 現段階で大学間交流を再開しないので、大学間の国際的枠組みは 必要ありません。
- (2) 【各大学個別の対応から】 大きな枠組みではなく、各大学が特定もしくは少数の協定校との間での個別の合意からはじめるべきだと思います。
- (3) 【国内での合意を優先】 まずは国内大学等で国際的にも通用する新たな枠組みを議論・共有するべきで、国際的な枠組みは国内での認識の共有が出来てからでしょう。
- (4) 【国際的な大学イニシアティブから】 国境を越えた交流の枠組みであるので、はじめから国際的な場で関係大学等が議論し、ベストな解を探るべき課題だと考えます。

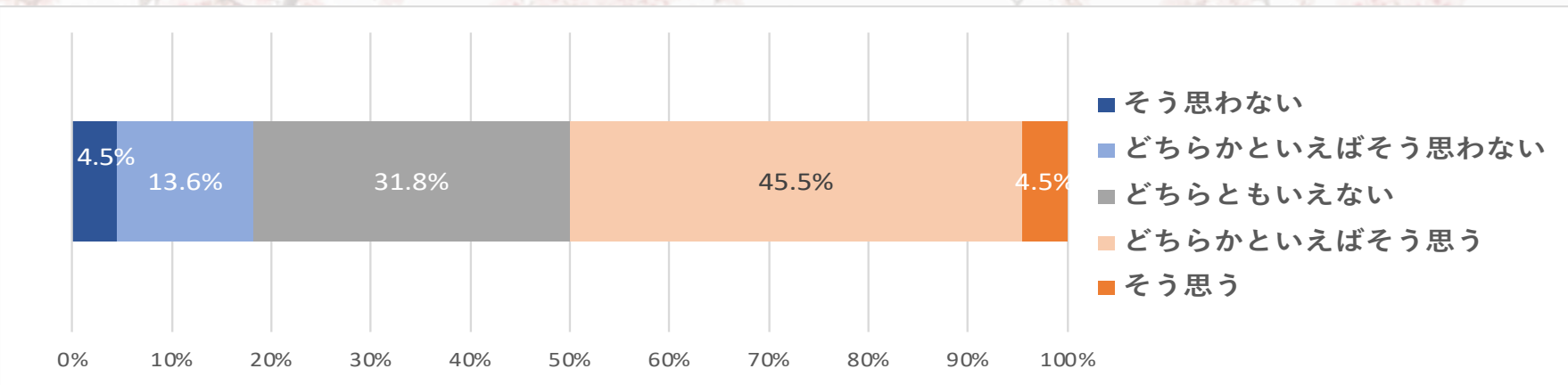
4. ドイツ調査の結果

4.8 ニューノーマル期の合意形成

(1) 【必要ない】 現段階で大学間交流を再開しないので、大学間の国際的枠組みは必要ありません。



(2) 【各大学個別の対応から】 大きな枠組みではなく、各大学が特定もしくは少数の協定校との間での個別の合意からはじめるべきだと思います。

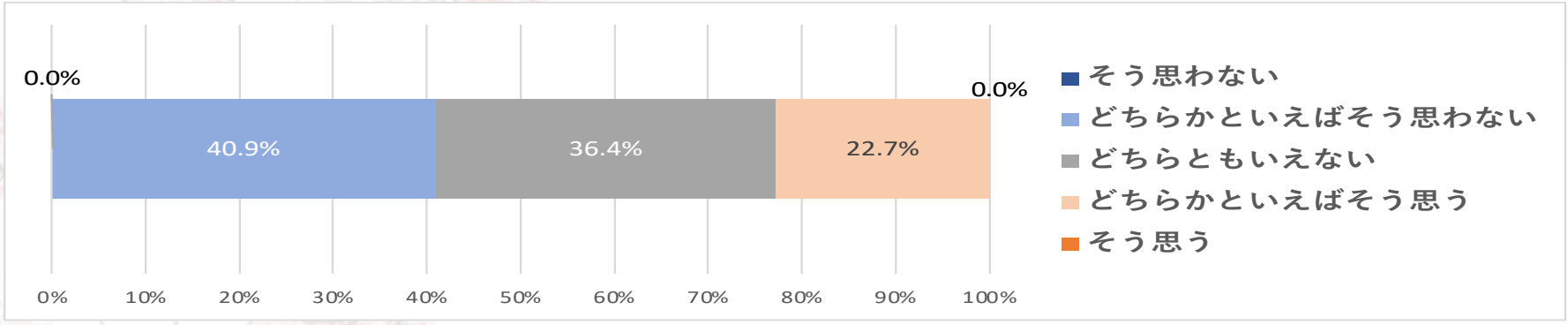


- 日本より、「そう思う」の割合が小さい。日本は、40%が「そう思う」を選択。

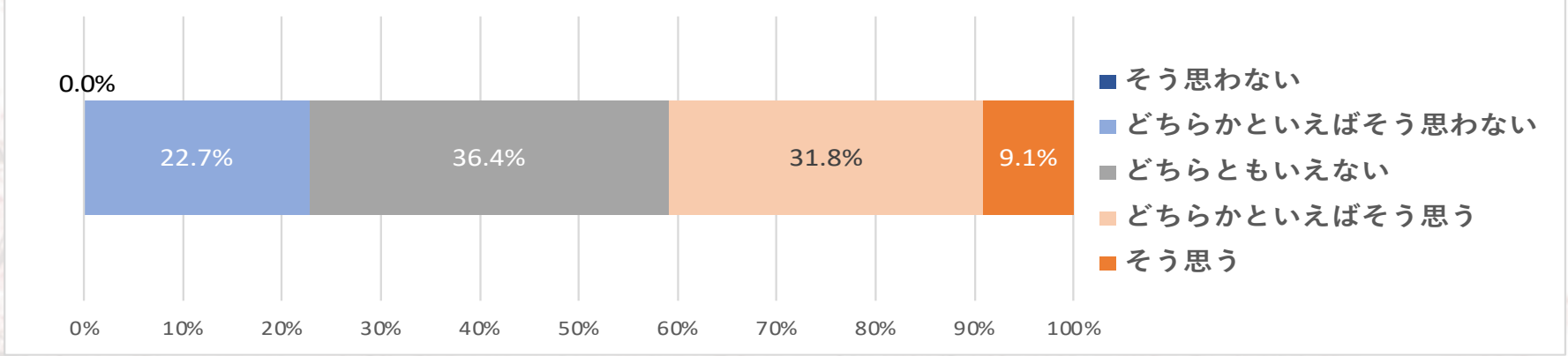
4. ドイツ調査の結果

4.8 ニューノーマル期の合意形成

(3) 【国内での合意を優先】 まずは国内大学等で国際的にも通用する新たな枠組みを議論・共有するべきで、国際的な枠組みは国内での認識の共有が出来てからでしょう。



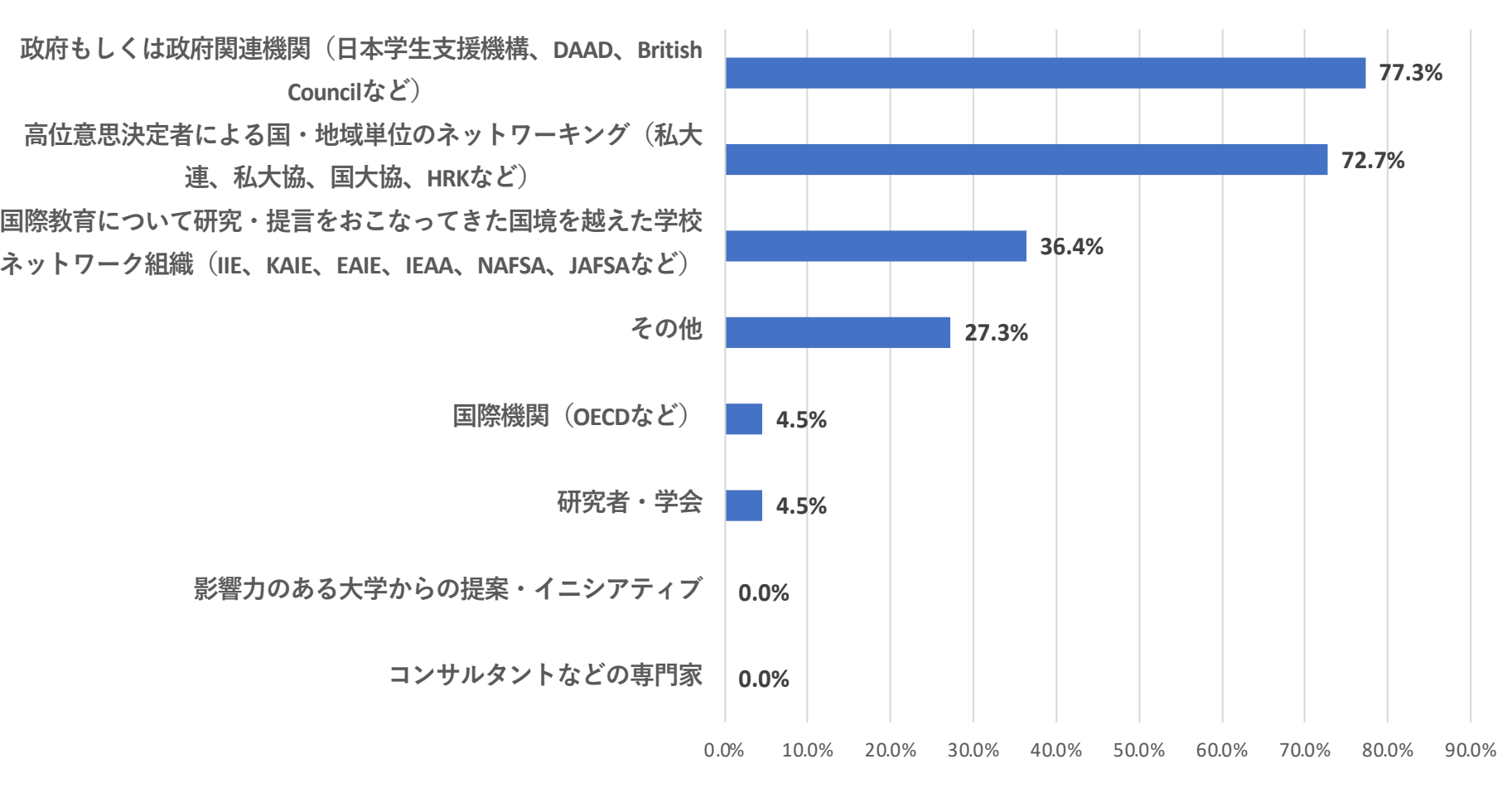
(4) 【国際的な大学イニシアティブから】 国境を越えた交流の枠組みであるので、はじめから国際的な場で関係大学等が議論し、ベストな解を探るべき課題だと考えます。



- (2) 「各大学個別の対応」と(4) 「国際的な大学イニシアティブ」を比較的重視する傾向。

4. ドイツ調査の結果

4.9 合意形成の主体（3つまで選択）

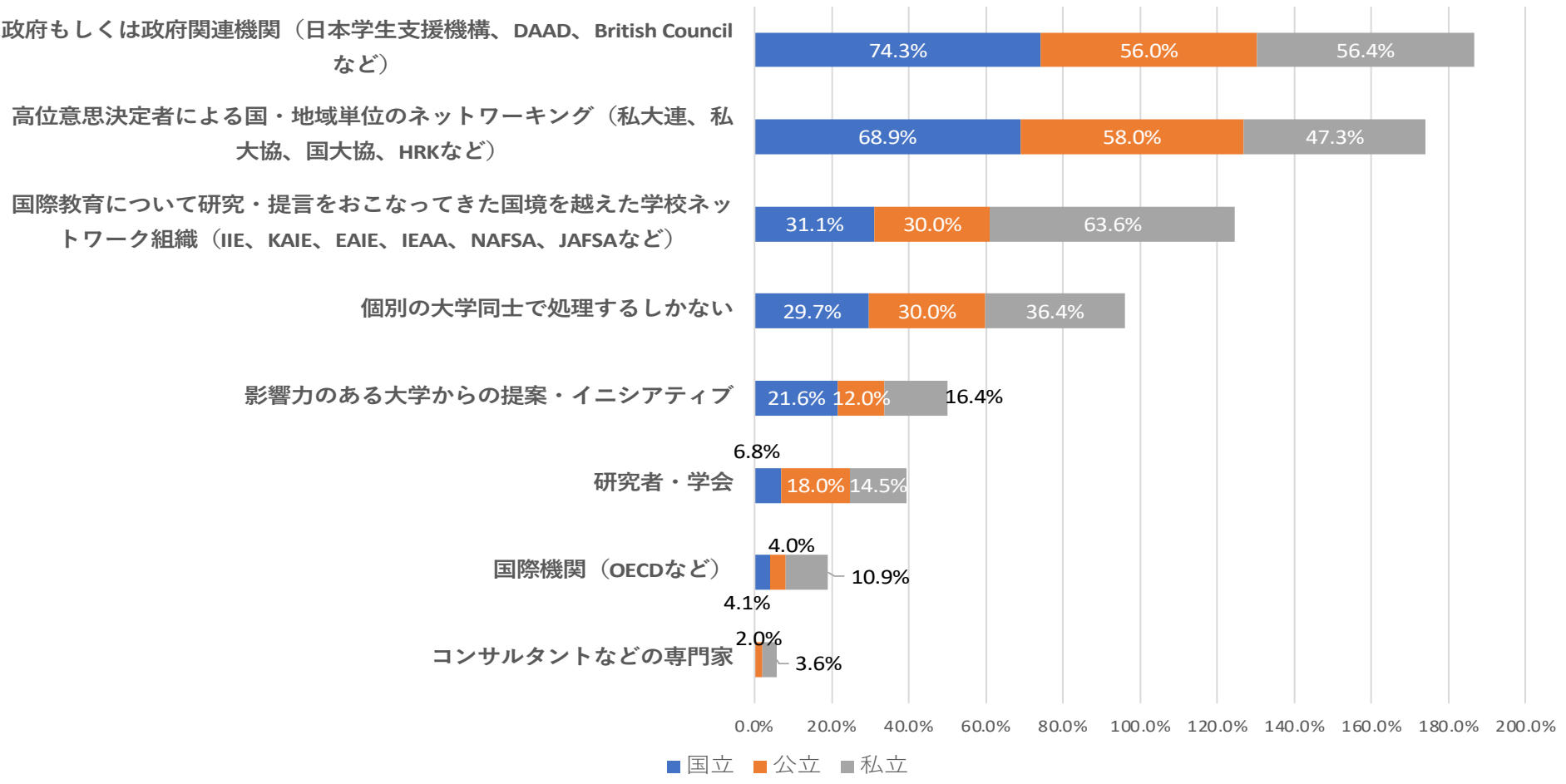


- 上位3つは、日本調査の結果と同じ。
- 「影響力のある大学からの提案・イニシアティブ」については回答がない₃₄

4. ドイツ調査の結果

4.9 合意形成の主体（3つまで選択）

（参考）日本の回答（179校）



5. まとめ

- ドイツ回答校は全て国立・州立であり、学費は無料。そのため、留学生に頼らない大学運営が可能。
→ パンデミック後の大学間学生交流についても楽観的な見解（DAAD調査とも一致）。
→ 保護者の意見を参考にしていない。
- 対面留学を重視する傾向が強い。
- バーチャルを活用した大学間学生交流（コース、申請手続き、マーケティング）の拡大にも力を入れている。

6. この調査結果からの提言

1. **ドイツとの大学間学生交流**を再開する際には、**対面留学を重視**する。
2. ドイツの大学とのバーチャルを活用した教育協定関連では日本は出遅れている。
さらに、オンラインの活用により、今後国際関係の部署の業務量の大幅な増加が予想される。
→ 今後、大学間学生交流において日本が取り残されないためにも、**国際交流関連部署の充実**が望まれる。

6.この調査結果からの提言

3. エラスムス+第6期（2021年～2027年）で、**前身のプログラムの約2倍の資金**を投入。
→ 高度人材の受入派遣促進という世界の留学交流の流れに日本が乗り遅れないようにする。
4. HRKやDAADのような、全国の大学を対象とした調査の実施と調査結果の迅速な開示ができる、**専門組織を設置する必要性**（一研究チームだけでは、限界がある）。

7. 今後の課題

- ドイツ・アンケート調査の回答がわずかであった。
- 各大学の具体的な取り組み事例を提示することができなかった。
- 今後は、ドイツの協力者へのインタビューを実施し、「ニューノーマル期の大学間学生交流再開の方針」や「留学形態の見通し」についてのドイツの具体的な動向について引き続き調査を行う。
- ドイツの大学制度をさらに調査し、ドイツの大学におけるニューノーマル期の大学間学生交流再開の傾向を明らかにする。

ニューノーマル期の大学間学生交流にとって、日本が何を考慮し、実行していく必要があるのかを解明したい。

参考文献

- DAAD (2021a) Wissenschaft weltoffen 2020, Retrieved August 6, 2021, from http://www.wissenschaftweltoffen.de/publikation/wiwe_2020_verlinkt.pdf
- DAAD (2021b) Working Paper: COVID-19 and the impact on international student mobility in Germany, Retrieved July 24, 2021, from https://static.daad.de/media/daad_de/pdfs_nicht_barrierefrei/der-daad/analysen-studien/corona_ap_final_engl.pdf
- HRK (2021) Higher Education Institutions in Figures 2020, Retrieved August 6, 2021, from <https://www.hrk.de/themen/hochschulsystem/statistik/>
- JASSO 「外国人留学生在籍状況調査結果一覧」
<https://www.studyinjapan.go.jp/ja/statistics/zaiseiki/> (2021/08/06閲覧)

参考文献

- 伊東武彦 (2003) 「ソクラテス計画とEU各国の外国語教育政策」 『大妻女子大学紀要. 文系』 大妻女子大学 (35):27-38
- 柿内真紀 (2006) 「EUの教育政策の方向性 —教育分野のアクション・プログラムを中心に」 『鳥取大学生涯教育総合センター研究紀要』 鳥取大学生涯教育総合センター (3):1-12
- 柿内真紀・園山大祐 (2005) 「EUの教育政策(III <特集3> 国際機関の教育政策)」 『日本教育政策学会年報』 日本教育政策学会 (12):93-101
- 上別府隆男代表 (2009) 『アジア・太平洋地域における大学間交流等の拡大 最終報告書 (平成20年度文部科学省先導的の大学改革推進委託研究)』 東京女学館大学文部科学省・先導的の大学改革推進委託事業調査研究報 (2021/08/06閲覧)
http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/itaku/__icsFiles/afieldfile/2010/11/12/1299006_1.pdf
http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/itaku/__icsFiles/afieldfile/2010/11/12/1299006_2.pdf
- 高良要多 (2012) 「グローバル時代における我が国の大学の展望：日本・米国・欧州の留学生政策の比較」 『同志社政策科学院生論集』 同志社大学政策学部・総合政策科学研究科政策学会 (1):43-58
- 駐日欧州連合代表部 (2014) 「グローバル人材を育てるEUの取り組み」 『駐日欧州連合公式ウェブマガジンEU MAG』 2014/06/27/金
<https://eumag.jp/feature/b0614/> (2021/08/06閲覧)
- 吉川 裕美子 (2003) 「ヨーロッパ統合と高等教育政策：エラスムス・プログラムからポロニーヤ・プロセスへ」 『学位研究』 大学評価・学位授与機構 (17):69-90

参考文献

- 中野遼子・石倉佑季子・近藤佐知彦（2020a）「COVID-19による日本人学生の派遣留学への影響 -日本人学生の声を中心に-」ウェブマガジン『留学交流』Vol.112. pp.44-57.
https://www.jasso.go.jp/ryugaku/related/kouryu/2020/__icsFiles/afieldfile/2020/07/08/202007osakau.pdf（2021/07/24閲覧）
- 中野遼子・石倉佑季子・近藤佐知彦（2020b）「留学交流へのCOVID-19の影響 -7月調査を中心に-」ウェブマガジン『留学交流』Vol.114. pp.26-42.
https://www.jasso.go.jp/ryugaku/related/kouryu/2020/__icsFiles/afieldfile/2020/09/08/202009osakau_1.pdf（2021/07/24閲覧）

本研究はJSPS科研費 JP 20KK0052の助成を受けたものです。

日本におけるニューノーマル期の大学間学生交流の方針に関する考察/実践報告

—ドイツの回答結果—

第26回留学生教育学会研究大会シンポジウム
オンライン開催

2021年8月20日

大阪大学国際教育交流センター

中野 遼子